

# poco a poco

パラグアイ便り 2023/11/01 Número9

2022年度 青年海外協力隊

氏名：吉田 花純

職種：小学校教育

## 【教員養成校で研修会を行いました】

小学校教育に関わる活動をするJICA青年海外協力隊のメンバーと協力し、教員養成校で学生のみなさんを対象に研修会を行いました。教員養成校からは、日本の授業の進め方や教材の使い方を教えてほしいと依頼を受けていました。事前に視察に行き、学生のみなさんが作成した教材を使った算数の模擬授業や、教材紹介などを行いました。教員養成校に通う学生のみなさんは、これから教師になろうとしている方ばかりです。やる気に満ちあふれており、キラキラと目を輝かせて一生懸命に話を聞いていただけました。向上心やモチベーションが高い学生のみなさんと一緒に過ごす時間はとても居心地が良く、エネルギーをたくさん貰いました。また、そこへ様子を見に来ていた養成校で働く教員や教育委員会の方々が、私たちの活動を高く評価してくださり、新たな活動の機会をいただけることになりました。



『一緒に勉強したなあ〜!』と日本で私を待ってくれている大好きな教え子たちのことを思い出しながら模擬授業をしました。



研修会の様子

## 【校長先生が退職されました】

私がパラグアイにいる間はずっといてくださる、そうであってほしい・・・と、願っていた校長先生が退職されました。年度途中で退職するシステムがあることも知らなかったため、突然のことで余計に驚きました。私のことをいつも気にかけてくださる優しく陽気な、誰からも愛される素敵な校長先生でした。そんな校長先生がいなくなり、現在、形式的な校長が不在の状態のまま学校が運営されています。トップが代わったばかりということもあり、仕事上で衝突する場面に遭遇することも増えた気がします。私からすると“今にも手が出るのではないかと心配になるほどの映画のワンシーンのような大喧嘩”に見えても、両者に話を聞くと「あれは喧嘩じゃないよ。ただ意見が少し違っただけだよ。」などと言われることもあり、まだまだパラグアイ人のことについて知らないことがあるなあと感じます。あくまでも個人的見解ですが、自分が感じたままに、言いたいことを面と向かってぶつけられるパラグアイ人の良さも、自分の非を素直に認められる日本人の良さも、どちらも大切なあと日々感じます。



退職をお祝いするセレモニーには、校長先生のご家族も参加することが一般的だそうです。

## 【ひとこと】

JICA青年海外協力隊の仲間たちが、私の家と配属先の学校へ来てくれました。私がお世話になっている大好きな大家さんは、パラグアイでの母のような存在です。また、私と同じ学校で教師として働く同僚であり、レストランと民宿の経営者でもあります。仲間たちには、その民宿に泊まらせていただきました。有名な教会を紹介したり、頂上からの景色が綺麗な丘へ登ったりするなどして、のどかな街を紹介しました。都会的な印象は全くなく、今はもうすっかり慣れたものの、不便なことも多い田舎です。道路は舗装されておらず、少し歩けば靴は赤土まみれ。道や学校の敷地内、教室の中にまでたくさんの野良犬や野良猫が住みついていて、鶏や犬、馬、いろいろな種類の鳥の鳴き声で、夜中や朝に目が覚めます。しかし、私はこの町のことを気に入っています。仲間たちにも、時間がゆっくりと流れているような穏やかで良いところだねと言ってもらえました。



至近距離で動物とすれ違うことにも慣れました



子どもたちと勉強をする様子



お借りした伝統的なダンスの衣装



自分の町が見渡せるお気に入りの丘



家では大家さんをはじめとして家族たちに、学校では同僚や子どもたちに、道を歩けば地域の人や子ども、その保護者から、どこでも「Kasumi!」と笑顔で話しかけてもらえます。その様子を見た仲間たちに「すごく愛されているね。」と、嬉しい言葉を言ってもらえました。どこを歩いても声をかけられる生活にすっかり慣れてしまい、特に意識をしなくなっていました。確かに有難いことだなあと改めて感じました。いつも買い出しに行くスーパーの量り売りコーナーの人たちには「いつもの〇〇肉△△gでいい？」などと覚えてもらっています。学校へ行く途中で「チパ（パラグアイの伝統的なお菓子）焼いたからあげるよ!」と、地域の人に食べ物を分けてもらうこともあります。道を歩いていると「どこ行くの? 乗せていってあげるよ!」と、同僚が車に乗せてくれることもあります。子どもたちは私を見かけると、いつでもどこでも嬉しそうに、ニコニコの笑顔でハグをしに来てくれます。改めて現地の方々に支えられていることを自覚し、優しく穏やかな心を忘れずに生活していきたいです。